

第19回金融教育に関する実践報告コンクール

優秀賞

小学生がお金を稼ぐ!?

～お金の学習を通して生き方をより良くしよう～

神奈川県・横須賀市立夏島小学校 教諭 高岡 政晴

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2022

1. お金のことを教えてくれない学校

2022年。それは教育界が大きく変わろうと動き出した一年である。高校の家庭科で投資について学ぶ授業が始まったのだ。これまで家庭科でのお金に関する授業は「無駄づかいしない」「だまされない」などとどまっていたが、新しい学習指導要領は将来に備えた資産形成の重要性にも踏み込んだ。金融広報中央委員会が公表している「金融リテラシー調査 2019年」^{注1}によると、日本人の金融リテラシーは、世界の主要国と比較して低いことがわかる。将来、お金について考えないで良いという人はいないのに、学校現場ではお金について学ぶ機会があまりにも少ないのが大きな課題であるとする。

社会にたくさんの人間を送り出す学校現場で「お金について学ぶ機会を増やすことはできないだろうか」「高校で学ぶから良いとせず、今働いているこの小学校からできることはないだろうか」。このように考えて本実践を行うに至った。

2. 小学生がお金を稼ぐ!?

小学生の「お金」の学習としてふさわしい目標・活動は何かを構想していく中で、高校生のように投資について学んでいくことは発達段階としてそぐわないと考えた。小学生が将来的に投資などに興味を持つようになるには、まずお金について考えてみたいと思える活動が必要ではないだろうか。そのためには、お金に触れる経験を積むことが大事だと捉えた。そこで、本実践のタイトルでもある「お金を稼ぐ」活動を計画した。学習したことを生かして、例えばお客さんに向けてダンスを披露したり、手作りのぞうきんを売ったりして働き、その対価としてお金をいただくというものだ。

しかし、ここでその集まったお金をどうするのかという問題が出てくる。ただ「営利目的」で行うのであれば、多くの方に賛同していただける活動になるかという疑問が残る。とは言っても、どこかに寄付するのであればお金の学習ではなく「慈善活動」の要素が強くなっていく。そこで「ふるさと納税」に寄付することにした。人や地域のためになるだけでなく、返礼品をもらえるという特徴がある「ふるさと納税」であれば、お金ほどの対価ではないとしても、働いた対価として返礼品を受け取ることができる。そして、この制度を知ることにより、6年生で学習する税金の仕組みについても、興味を持ちやすくなるのが期待できる。

「小学生でお金について学ぶ必要があるのか」との意見を持つ方がいらっしゃるだろうが、この活動の本質的な学びは「お金に対する知識」ではなく、お金を足掛かりにして「自己の生き方をより良くしようとする」ことであるとする。より良い生き方を模索することは、小学生だから必要ないというものではないだろう。

3. 実践内容

①安い方がいい？高い方がいい？【1時間目】

お金にはモノの対価だけでなく、様々な価値が含まれていることに気付いてほしいという願いから、最初の授業は「コンビニで買ったカフェラテとスターバックスで買ったカフェラテ。みんなならどちらが欲しいですか？」という発問で始めた。考えを聞いていくと様々な意見が出た。

興味深かったのは「安いからコンビニがいい」という意見と「高いからスターバックスのお店がいい」という意見が出たことだ。また「お金が大事な人と、味が大事な人がいる。何が大事かで選び方が変わる」という意見も出た。すると「味というより目の前で作ってくれる感じとか、あの場所で飲んで感じる感じがいいのだと思う」という考えもあった。子どもたちからは様々な意見が出て、多くの子がお金の多面的な価値について考えている様子が見られた。

②どんなものにお金を使っている？

お金の様々な価値について考えた1時間目を終えた後、自分や家族が使っているお金について整理し、自分のお金の使い方の価値観について振り返ってほしいという思いで2時間目を構成した。自分や家族がどのようなものにお金を払っているのか書き出していき整理した。電気や水道など生活に必要なモノ、お菓子や漫画などあったらいいと思うモノ、プレゼントなど人のために使っているモノなどを色分けしながら整理していった。すると、子どもたちの中から「人のためにはほとんど使っていないことに気付いた」と授業の振り返りで言う子がいた。この意見に賛同する子が多く「人のためにお金を使ってみよう」という思いを、クラスみんなで共有することができた。このような姿が生き方をより良くしていこうとしている姿だと捉える。

③専門家に話を聞こう - 1

「人のためにお金を使ってみよう」という思いを抱いても、どのように使うことができるのか選択肢を持っていないと行

動には移すことができない。そこで専門家に話を聞くことにした。子どもたちが「お金の教育」などをキーワードに、GIGAスクール構想での一人1台端末Chromebookで調べたサイトや動画から見つけた「小学生～大学生の皆さんに世界水準の金融教育を提供しているPremier Financier(プレミア・フィナンシエ)」の方にオンラインで授業をしていただいた。この調べる活動において、後に授業していただくことになる税理士でYouTuberの大河内薫さんについても知るようになる。

授業内容とはいうと「お金のはじまり」「お金の役割」「モノの値段の決め方」「お金の価値の変化について」等である。そんな授業の中で「消費・浪費・投資」という考え方があることについても教えていただいた。さらに、投資の中には小学生でもできる投資があり、そのひとつが「ふるさと納税」とであると聞き、ここで初めて学校で「ふるさと納税」という言葉に出会うこととなった。

④ふるさと納税って何？

「ふるさと納税」と出会った子どもたち。CMなどでも聞いたことがあり、知っているという児童がほとんどであった。しかし、詳しい内容については分かっていないし、調べても簡単には理解できない。そこで「税金ってどこで管理しているんだろうね」と子どもたちに聞いた。すると「市役所じゃないの」という反応が返ってきた。「じゃあ今度は市役所の方にふるさと納税についてお話ししてもらおう」と言って市役所の方に来ていただくようにした。

実際にお越しいただき「ふるさと納税とはそもそもどういう仕組みなのか」「ふるさと納税で扱える返礼品」等のお話をいただいた。その授業の中で、子どもたちにとって最も印象に残った言葉が「ふるさと納税は返礼品がもらえる寄付」というものだった。

授業の後の振り返りには「僕もふるさと納税をやってみたいと思いました」と書いている児童がいた。これを取り上げ「こんなことを書いていた人がいるけれど、みんなはどう思う？」と聞くと「やってみたい」と多くの子が反応し、ふるさと納税に寄付するという思いを共有した。

⑤お金がない！

ふるさと納税に寄付すると決めたわけだが、ここで大きな壁に突き当たる。ふるさと納税に寄付するお金をどうするか。「最低3,000円くらいでできるってことだから、3,000円くらいならお家から持ってこれそう」と言う児童がいたが「持ってこられる人もいないかもしれないけれど、3,000円持ってくるのは大変だね。じゃあ、どうしたらふるさと納税ができるかアイデアを出してみましよう」と言って、班ごとに話し合いをしていった。はじめは話し合いがなかなか進まなかったが、一つの意見から大きく話が進んでいく。

「売る」

「みんなどう思う？」と担任が聞くと「お店じゃないし、小学生がモノを売るなんてできないよ」という意見が出た。さらに担任が「そっか。でもさ、お家の人とかでお店じゃなくてもモノを売ったりしていない？」と聞く。すると「あるある！メルカリとか」という声が上がリ、そこから話し合いが活発になっていった。

ここで出た意見を整理すると「路上ライブをする」「家庭科で学習したぞうきんを作って売る」などが主なアイデアであった。しかし、ここでもやはり「小学生がモノを売っていいの？」という疑問はぬぐえない。そこで、また専門家に話を聞くことにした。

⑥専門家に話を聞こう - 2

ここでは税理士でYouTuberの大河内薫さんに話を聞いた。大河内さんは全国の学校でお金の授業をされている。お金のことについて学ぶ重要性や、お金は道具にすぎないのでお金に悪いイメージを持たないでほしいなどのメッセージをいただいた。質問の時間には「小学生がモノを売っていいの？」と聞き、問題がないことを教えてくださった。また、販売活動などをするのであれば「学校を有効活用していくと良い」とアドバイスもいただき、12月には自分たちが活動していったことを聞いてもらい、講評をいただく約束もした。

⑦小学生だからこそできる「ぞうきん販売」

小学生でもモノを売って良いことを知り、販売活動をして集めたお金を寄付することにしよう話し合いで決まった。そこで何を売するのか話し合っていて、以前挙がったお金のかからない「手作りぞうきん」を販売するのが良いのではないかと意見でまとまりかけた。しかし、その時に反対の意見もあった。「ぞうきんはスーパーで買った方が安いし、丈夫で、新しく清潔感もある。わざわざ手作りのぞうきんを買ってくれる人はいないのではないか」という意見だ。ここで振り返っ

たのが最初のカフェラテの授業だった。お金の価値はモノの対価だけでないことを学んだ子どもたちである。「たしかにスーパーより質のいいものは作れないけれど、手作りであったり直接売ったりするという、人と人のつながりを意識した販売が大事だと思う」という意見が出て、クラスみんなが納得していった。人と人のつながりを大切にすることがより良い生き方につながっていくと考える。また、お金がかからないし、たくさんの人に楽しんでほしいという思いから「運動会で踊ったダンス」も披露し、良ければお金をいただくという活動も企画することにした。

⑧どこで販売するか

次に考えたのが場所である。より多くの人に知ってほしいという思いにより、学校から歩いて10分の駅で活動するのが良いとなった。しかし、道路での販売となると許可が必要だ。調べると許可申請を出すのに2,000円かかることが分かった。何もお金がない中で2,000円を出すことは難しい。そこで思い出したのが大河内さんにいただいたアドバイス「学校を有効活用していくと良い」というものだ。2,000円集まったら、また駅で企画すればいいから学校でやろうという意見でまとまっていった。

ぞうきん販売とダンスパフォーマンスで集まったお金を寄付する活動を「きふフェス」と銘打って、ぞうきんを作ったりダンスの練習をしたりして準備を進めた。地域の方に向けて校門の前にポスターを貼ったり、チラシを作って校内の保護者の方に配ったりして広報活動も行っていった。

⑨きふフェス当日

当日、子どもたちは朝から活動場所の掃除をしたり、作ったぞうきんのレイアウトを考えたりと積極的に行動する姿が見られた。45分間の間に約70人の方にお越しいただいた。その内15人がクラスの保護者、50人ほどがクラス以外の保護者、数人が地域の方であった。子どもたちが元気にあいさつをしたり、ダンスを踊ったりして、お客さんのとても楽しそうな表情があちこちで見られ大盛況のまま幕を閉じた。

売り上げ目標は道路使用許可申請ができる2,000円だったが、それを大幅に上回る8,470円であった。ぞうきんは2枚で100円、ダンスは良ければ50円いただくという金額設定とした。子どもたちはお金をもらうことにより「こんなにももらうことができた」と働く喜びを感じていた。

⑩新たな価値の創造と課題

大成功で活動を終えた子どもたちだったが、活動の反省から次回の活動を構想していった。そこで反省の材料としたのがお客さんのアンケートだった。特に子どもたちに注目してほしかったのが、ぞうきんやダンスにお金を出してくれた人の意見。「みんなが一生懸命に縫ったぞうきんを購入したかった」「みんなが元気よく販売していて好感が持てたから」などの意見が寄せられた。ここで子どもたちに「みんなこの意見を見てどう思う？近くの人と話してごらん」と言うと、勢いよく話し始めた。

その中で一人の男の子が「頑張っていることを認めてもらったり、元気に売っている姿を見て買ってくれたりしている。ぞうきんを買ってくれたというより、僕たちとのつながりでお金を出してもらった感じがする」。この発言はお金の価値をモノの対価だけで捉えていない考えであった。学びが蓄積しているからこそこの発言であった。子どもたちはスーパーでは作れない価値を創造したのである。このような経験もより良い生き方を考える礎になっていくと考えている。

しかし、課題も残った。「お金をもらうのであればさらに質を高めた方が良い」「今回は保護者の方が多かったが、それでお金の学習になっていると言えるのか」などの意見があったことだ。それを含めて今後どのようなことを考えていきたいかを聞くと「品質を上げるためにどのようなことに取り組むのか」「第2回きふフェスはいつどこで行うのか」「今回は主に保護者をターゲットとしたが、次回は誰をターゲットにしてどのように呼びかけるのか」などが挙がった。

この新たな課題の解決に向けて、子どもたちが後期も探究的に学んでいくことを期待している。

4. 本実践を振り返って

本実践は実践途中であり、活動はまだまだ続いていく。教員仲間に相談すると「楽しい活動をして学びがなかったとならないのか」「小学生からお金を学ぶ必要があるのか」など様々な意見をいただく。

ここまでを振り返ると、児童が意欲的に授業に臨んでいることが最も印象的である。たしかに、その姿だけを見ていると価値のある学びにつながっているのかと考える人もいるだろう。しかし、実際にお金に触れる経験をすることで、人と人と

のつながりの大切さに気付いたり、人に喜んでもらうことによる喜びを感じたりすることで自己の存在を実感するなど、教科書に載っていないことを学ぶ場面が多くあった。「自己の存在を実感し、将来の自分を見つめ、生き方をより良くしようとする」という目標に向かって、子どもたちは成長していると感じる。小学生からお金を学ぶ必要性については、本実践が終わった後、あるいは数年後に、子どもたちが学んだことを生かしてどのように生活していくかによるだろう。ただ、保護者から活動の趣旨に賛同する旨がアンケートで寄せられた事実は胸にとどめておきたい。現段階で本実践を否定的に捉えるのではなく、価値ある実践になるようさらなる探究的な学びを追究していきたい。

注) 金融広報中央委員会「金融リテラシー調査2019年調査結果」

URL https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy_chosa/2019/

単元目標 (総合的な学習の時間)

家族や地域のゲストティーチャーから働くことや仕事、お金について学んだり、実際に活動の対価としてお金をもらうことを通して職業観や勤労観を高めようと探究したりすることにより、自己の存在を実感し、将来の自分を見つめ、生き方をより良くしようとする。

育成を目指す資質・能力

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 学びに向かう力・人間性 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 人によって様々なお金に対する価値観があること、お金の使い方には消費・浪費・投資などの分類があることについて自分なりに理解する。 ・ 活動の対価としてお金をもらうことで、働く意義や仕事のやりがい、お金の大切さについて自分なりに理解する。 ・ 家族や地域の職業人と関わり、生き方をより良くしていくことの大切さを理解する。 ・ より良い発表や提案になるために集めた情報を整理したり分析したりする方法を理解する。 ・ 課題解決に向けた話し合いの仕方を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ お金について調べる機会を通して「より良い生き方」における「お金」について考え、前向きに自己の生き方を見つめ、考える。 ・ 様々な情報収集を通して、社会の問題点を多面的に分析し、社会参画のための具体策を考える。 ・ 「充実した生き方」について考え、前向きに自己の生き方を見つめ、考える。 ・ 働くことの「やりがい」と「目的」を調査や探究から見だし、話し合いから自分なりに判断する。 ・ 人の考えを認め、受け入れたり、疑問を感じたり、批判的に思考することで多くの考え方に触れ、自分の「より良い生き方」に生かすことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりに共感できる仲間の「より良い生き方」における「お金」の考え方を見つめることができる。 ・ 積極的に様々な人と関わりをもち、他者の生き方から自分の生き方を見つめる。 ・ 体験や調査を模造紙やレポートにわかりやすくまとめ、自分の考えを明確にして発表する。 ・ 異なる考えも受け入れ、協働してより良く課題解決しようとする。 ・ 自分の追究活動を振り返り、今後の生き方について他者に伝えることができる。 |

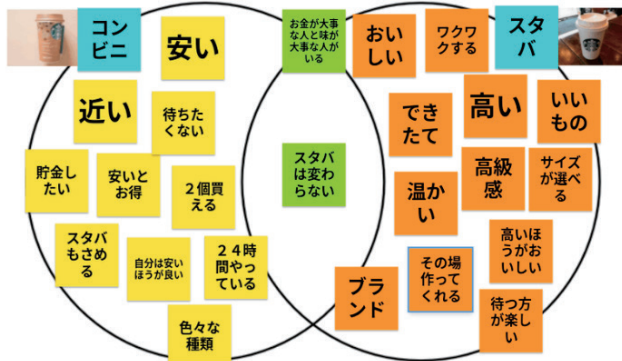
単元計画

| 月 | 主な学習活動・予定時数 | 各教科との関連・外部の教育資源活用 |
|----|--|---|
| 4 | | |
| 5 | お金について考えよう 3 お金の専門家の話を聞こう①② 3 | 家庭科 お金の使い方 外部講師 プレミア・フィナンシェ、市役所税務課の方 |
| 6 | お金とは何か・今後の方向性 2 | 社会 納税のしくみ |
| 7 | お金の専門家の話を聞こう③ 2 寄付活動 企画・立案 9 | 外部講師 税理士 大河内薫さん 国語・図画工作 ポスター活動広告 |
| 8 | 寄付活動準備 10 | 体育・家庭科 ダンス・ぞうきん |
| 9 | 寄付活動① 2 活動のふりかえり課題整理 4 | 算数 寄付金の精算 国語 話し合い活動 |
| 10 | 寄付活動 企画・立案② 5 専門家の授業 4 | 外部講師 地域の手芸店・ダンス教室の方・国語・図画 工作 ポスター活動広告 |
| 11 | 広報活動 4 寄附活動準備 10 | 体育・家庭科 ダンス・ぞうきん |
| 12 | 寄付活動② 2 活動のふりかえり課題整理 3 外部講師にプレゼン 2 | 算数 寄付金の精算 外部講師 税理士 大河内薫さん 国語 話す・聞くスキル |
| 1 | ふるさと納税に寄付 2 | 社会 納税のしくみ |
| 2 | 活動のふりかえり・まとめ・交流 3 | 国語 話す・聞くスキル、書くスキル |
| 3 | | |

資料1

実践内容①

・どちらを買いたいかわン図で整理した意見



1時間目では金額の異なるカフェラテをここで買いたいかを考え、交流することで、お金に対する価値観が様々であることに気付いた。

実践内容②

・普段何にお金を使っているかY字チャートで整理した意見



2時間目では自分や家族がどのようなモノにお金を使っているのか整理した。必要なものとそうでないもの、人のために使っているものに分けることで、人のために使いたい思いを持った。

実践内容③

・プレミア・フィナンシエのオンライン授業



消費や浪費、投資という考え方があることを教えていただいた。その投資の中にふるさと納税があることを知り、ふるさと納税に寄付する活動を考えていく。

お金を何に使っている？

必要なもの ・ 消費

ほしいもの ・ 浪費

人のためにお金を使う

誰かのために！応援！

- きふ ぼきん
- ・ 寄付、募金
- かぶしき
- ・ 株を買う
- のうぜい
- ・ ふるさと納税

資料2

実践内容④

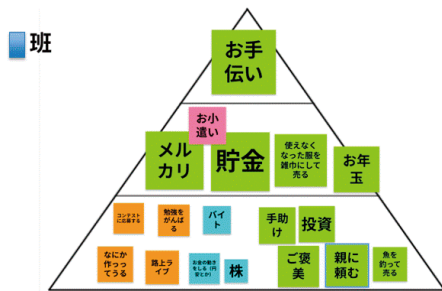
- ・市役所の方の授業「ふるさと納税」



ふるさと納税とはどういう制度なのか、返礼品にはどのようなものがあるのかなどお話をいただいた。その中で「ふるさと納税は返礼品がもらえる寄付」であるという言葉が子どもたちの印象に残り、ふるさと納税に寄付したいという思いを持つようになる。

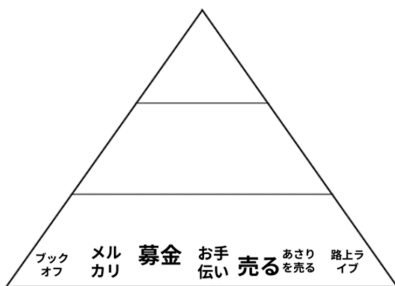
実践内容⑤

- ・各班の意見を整理したピラミッドチャート



ピラミッドチャートを使い、寄付するお金を集めるために何が出来るか班で話し合っていた。良いとなったものを上げていき、各班1番上のものをクラスの話し合いの際に意見として出し、同様にピラミッドチャートで話し合いをしていった。

- ・各班から挙げたものを下の段に入れたクラスのピラミッドチャート



ここにある「売る」という意見が話し合いの中で、ぞうきん販売となり、「路上ライブ」がダンスパフォーマンスへと変わっていった。

実践内容⑥

- ・大河内薫さんのオンライン授業

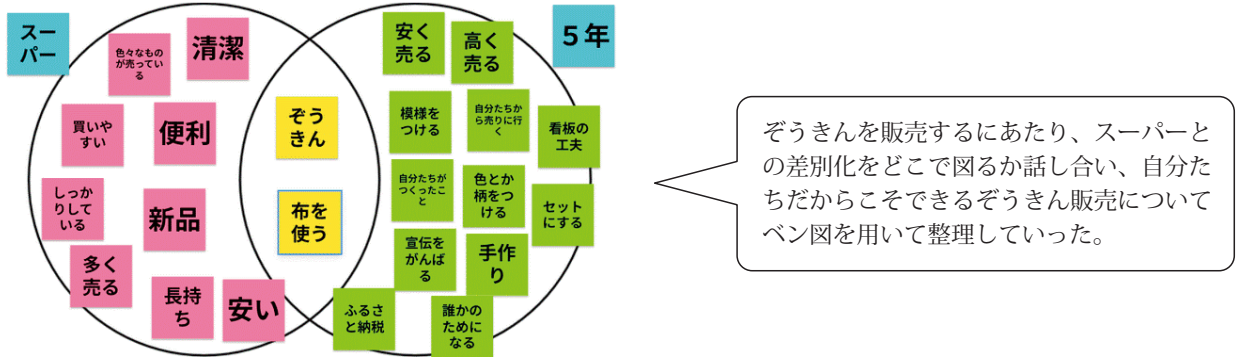


小学生でもモノを販売してよいのかという疑問に対し、小学生でもモノを販売してかまわないことを教えていただいた。また、販売活動を行うのであれば学校を有効活用した方が良いとのアドバイスもいただいた。

資料3

実践内容⑦

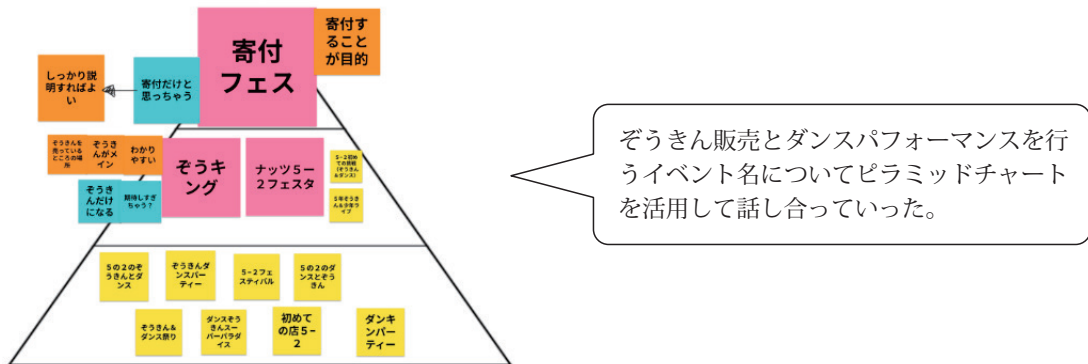
・自分たちができるぞうきん販売について整理した意見



ぞうきんを販売するにあたり、スーパーとの差別化をどこで図るか話し合い、自分たちだからこそできるぞうきん販売についてベン図を用いて整理していった。

実践内容⑧-1

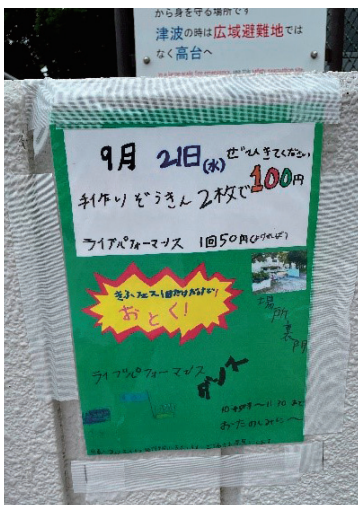
・イベント名を話し合った際に整理した意見



ぞうきん販売とダンスパフォーマンスを行うイベント名についてピラミッドチャートを活用して話し合っていた。

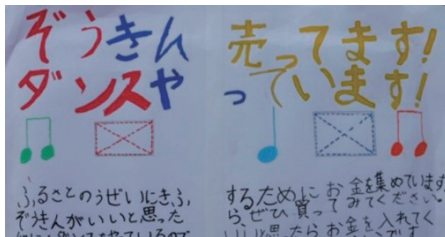
実践内容⑧-2

・地域の人に向けたポスター

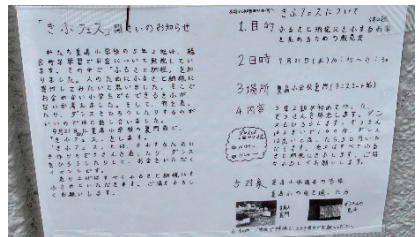


多くの人に知ってもらえるよう、ポスターや看板、チラシを作製した。チラシは目的をはっきり書いた方が良くと校長先生に児童が直接指導されたことを生かして改善していった。

・当日に児童が持ちながら宣伝した看板



・チラシ



資料4

実践内容⑨

・きふフェス当日の様子



当日は開門と同時にたくさんの方がぞうきん販売の列を作った。「ありがとうございます。」と元気な子どもたちの声が響いた。

実践内容⑩

・活動当時の子どもたちふりかえり

① きふフェスのよかったところ・反省・次にやってみたいこと
 ぞうきんではたくさん買ってくれてよか、たです。ダンスではみんな手拍子してくれていたことがよか、たです。反省 ぞうきんがたりなかつたことです。次、売るときはもとたくさんつく。といたほうがいいのかなと思います。でも、よびかけやおたよりでたくさん人がきてくれたと思うので次もそのような方法で人を集めるのがいいと思います。

① きふフェスのよかったところ・反省・次にやってみたいこと
 お客さんに説明できた。大きな声で、「いらっしゃいませ、ありがとうございます！」と言えた。みんなと協力して、ぞうきんを売った。最初の準備から最後の片づけまでしっかりできた。たまに他のところに行くと友達としゃべった。次もう一回やたらいいと思う。理由は、馬鹿でやるのは知っているけど時間がない、人が多いいと思う。多くのぞうきんをつくり、もと売るのが目標です。〇〇

ぞうきんをたくさん買ってもらったこと、手拍子をしてもらったこと、仲間と協力できたこと、お客さんのことを思いながら準備や片づけができたことなどがよかったと記述している。なぜそれがよかったのかを今後の授業で問うていくことで、人に喜んでもらう喜び、自己の存在の認識、より良い生き方について考え、目標に迫っていきたい。